

アゼルバイジャン投資ホールディング(第 2 報)

昨年 8 月 7 日付の大統領令によって設立されたアゼルバイジャン投資ホールディング(Azerbaijan Investment Holding: AIH)について、昨今の動きの概要及び当地論評記事をまとめましたので、ご紹介します。

AIH については、【経済トピック第 17 号】でも既にご紹介しておりますので、今回は続報になります。

1. 昨年 11 月 5 日付の大統領令により、AIH 傘下に入る予定の国営企業リストが策定された後、本年 1 月 25 日付の大統領令により、バクーバスが同リストに追加され、計 22 社が対象となりました。
2. 上記1の国営企業リストの内、SOCAR、アゼルゴールド、アゼルバイジャン・カスピ海海運、バクー国際貿易港の 4 社が昨年 11 月 6 日付で、またアゼルバイジャン航空、アゼルバイジャン鉄道、バクーメトロ、バクーバスの 4 社が 1 月 25 日付で、実際に AIH の傘下に入ることが決定されました。
3. AIH 傘下に入った国営企業については順次、監査役会のメンバーの任命が進められています。いずれの国営企業においても監査役会議長は大臣或いは副大臣です(SOCAR は経済大臣、アゼルゴールドは経済副大臣、アゼルバイジャン・カスピ海海運は財務大臣)。監査役には、副大臣、関連省庁局長、AIH 役員等が任命されています。
4. AIH 関連の動きに関する当地論評は以下のとおりです。

(1)「AIH の設立の目的は何か」

(2 月 13 日付、アクチュアルインフォ・ウェブニュース)

アゼルバイジャン銀行協会のメンバーである経済専門家エルマン・サディゴフ氏は次のとおり分析している。「非効率的経営が問題視され多数の国営企業が AIH の管理下に置かれることになったことは、国民の誰もが理解している。これらの国営企業は利益を上げられない赤字体質で、国の補助金に長年依存してきた。しかし、歳入が減少しつつある現在、国は従来のように国営企業に対して補助金や低利融資を出し続けることはできない。従って、国営企業経営には大きな変革が必要である。多くの国営企業で(サービス)価格の適正化、コストの見直し、リスク管理、営業戦略改善などが必要である。AIH が必要な変革

を推進するだろう。」

(2)「なぜ新たに4つの国営企業が AIH 管理下に置かれたのか」

(2月16日付、バクーポスト・ウェブニュース)

国会議員であり、経済専門家でもあるヴガール・バイラモフ氏によれば、多くの国営企業が AIH の管理下に置かれる理由は以下のとおりである。「AIH の管理下に置かれた国営企業は相当数の従業員を雇用し、国庫に一定の貢献をしており、これらの国営企業の効率性と透明性を向上させることは重要である。AIH の管理下に国営企業を置くことは、これらの国営企業に対する投資を守ることや国営企業と民間企業との協力関係の強化にも繋がるだろう。」

また、(野党)REAL 党の事務局長であり、経済専門家でもあるナティグ・ジャファルリ氏は AIH について次のとおりコメントしている。「アリエフ大統領が指摘しているとおり、AIH は国営企業の赤字経営問題の解決のために設立された。国営企業は、時にコストを大幅に、かつ偽って膨張させたり、不透明な入札を行う等して国庫の負担になってきた。ほとんどの国営企業経営は、補助金によって成り立ってきた。そのような状況を変え、国営企業が利益を上げられるようにするために AIH が設立された。AIH 設立後 6 カ月が経過したが、有意義な変化が見られているとは言い難い。国営企業の赤字経営を解決するには、まず大規模な監査を行い、赤字に陥る理由、コスト削減に向けた方針などを明らかにする必要があるが、この点で進捗が見られていない。アゼルス公社(水道公社)が最近行ったような価格引き上げは正しい道ではないであろう。価格引き上げの前に、コスト削減が第一歩であるべきである。AIH 管理下の国営企業は、まず内部監査を実施し、今後に向けたロードマップを作成する必要がある。」

(以上)